

世界が急速に均質化するなか なおも伝統を保つ少数民族の貴重な記録

Invisible Peoples 世界の少数民族

写真・文：イアゴ・コラツァ グレタ・ローパ／発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

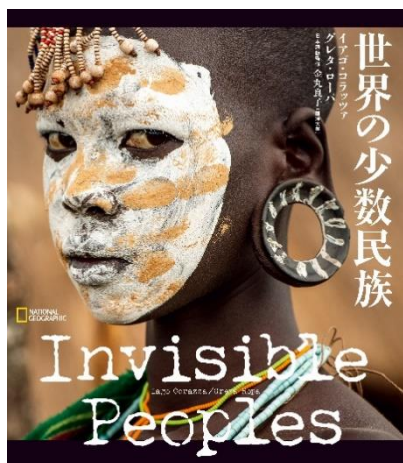
日経ナショナル ジオグラフィック社（代表：中村尚哉、所在地：東京都港区虎ノ門）は、
『Invisible Peoples 世界の少数民族』を10月22日（火）に発行します。

本書は、世界の少数民族のうち、特に伝統がよく保存されている21の集団を記録したビジュアル書籍です。取り上げられている人々は、グローバル化の波が押し寄せるなか、強い意志をもって伝統を伝えている集団ですが、それは一方で排他的である可能性も含んでいます。たとえば、アルメニアに居住するロシア系のモロカン派は来訪者を歓迎せず、これまでほとんど日本のメディア露出がありませんでした。

また、なるべく伝統を残した集団を探し訪ねたため、亜集団が複数存在するナガ人の場合、本書ではコニャック・ナガとワンチョ・ナガの2集団を取り上げています。こうした方針で、都市の横で遊牧生活を続けるラバーリー、泥人間で伝説を再現するアサロ、この世ならざるものに従うコディ、仮の地に住むヤスディ教徒のクルド、戦争儀式が重要な役割を果たすマンガライなど、多様な姿を収めました。

イタリアのナショナル ジオグラフィックで活躍する写真家による圧倒的な写真では、人々を中心に、独特の建築、美しい自然、勇壮な儀式などを捉えています。写真とともに、現地取材による文章が、価値観・生活様式・自然環境・服飾の多様性を伝えます。

著者は100年後にはこうした姿は消え去っているのではないかと記しています。今現在の少数派の記録として、非常に意義のある一冊です。



Invisible Peoples 世界の少数民族

2019年10月22日発行／定価 4,200円＋税／264ページ／ハードカバー／
サイズ：天地248mm×左右215mm／写真・文：イアゴ・コラツァ、
グレタ・ローパ／日本語版監修：金丸良子（麗澤大学客員教授）／
発行：日経ナショナル ジオグラフィック社

【主な内容】

- 女性 長角ミャオ／ボンダ／モソ／ハニ／黒イ
- 挑戦 アサロ／マンガライ／スリ／コニャック・ナガ
- 孤立 ラバーリー／ベルベル／ヤスディ教徒のクルド
- 宗教 トダ／コディ／モロカン派
- 自然 ビシュノイ／ワンチョ・ナガ／バナアツ
- 印とシンボル デジア・コンド／トゥロン／アパタニ

ナショジオストア <https://nationalgeographic.jp/atcl/product/19/092600035/>
Amazon <https://www.amazon.co.jp/gp/product/4863134541/>

- 少数民族のうち、とくに伝統を守り伝えることに努めている集団を取り上げている。
- 写真の寄せ集めではなく、現地を訪ね撮影し、聞き取りをした、現状のリアルな記録。
- モロカン派など、これまでほぼメディア露出がなかった人々も掲載。
- 調べ物学習にも、秘境の写真集としても、少数民族の現状を知る参考資料としても最適。

Invisible Peoples 世界の少数民族

10月22日発行 / 日経ナショナル ジオグラフィック社



ラバーリー 【インド グジャラト州】

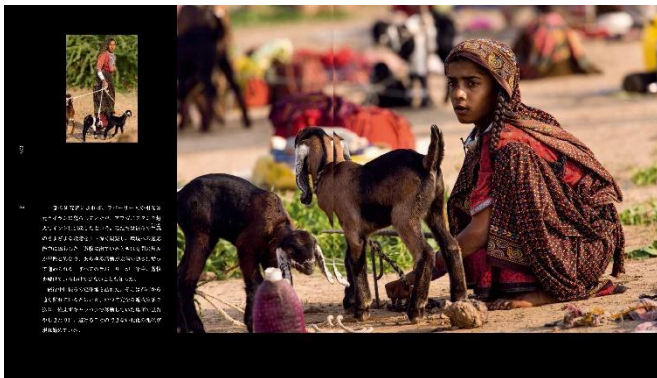
砂塵

ラバーリー (インド)

初めてラバーリーの人々を見たときのことまで印象に残っていること
いえば、砂ぼこりがキャラバンが足をとめてからしばらく経
つに、まだ砂ぼこりがキャラバンの周りに立ちこめている。その川でキャラバン
のメンバーが着せしヒトコブツカグダから高鳴を下げた。この様子は
今もラバーリーの文化の象徴である。カグダはゆるりと巻く巻くから、
取れたり、うめいたり、戻えたりしている。ラバーリーの人々は、自分たちはカグ
ダを舞っているだけでなく、守っているのだと考えている。ヒトコブツカグダは神聖
な生きものとして、ラバーリーにとって、カグダの里話をすることは自分たちの家
系に言された、聖の言葉なのだ。

ラバーリーは昔の人手で失われてしまった宗教生活を今も続ける。人権上の
生きるモニュメントだ。私たちが理解したグループは少人数でラバーリーへの旅
びが苦しかった。女性の手は忙しかついていた。誰もが自分の持てるものと
戦い、ターメ族(インド北部にある世界最古の現住民族)でどう行動すべ
きか争論に陥っていた。グジャラト州のカッチ州の地味なラバーリー
に向き直らねばならない。彼らはこの地域をカッチと呼ぶ。カッチ
は「動に動かし、動に動かし」という意味で、この地方の道徳を気取る可能に
変えている。人間を常に長寿神の愛が育つと、1年の前半は山の光が照らす
結核。今も昔の道徳を女性たちが守るが、刃先はカグダの半信を
連れて行く。

砂ぼこりは女性たちのために敷かれた布を巻く距離のかけらに響き
、さらさらの布やシンプスな髪を流し流し顔の人肌、そして男たちの髪に巻
かれた大きなターバンやさんとおぼろげな川沿いの上にも響いた。砂ぼこりは
古くから伝わるラバーリーの神話や伝説、女神パールバティとの絆も語り重
もっているようだ。この女神は愛の御座るとされ、家畜を連れて良い道徳の旅に
出る前、ラバーリーの人々は今でも先祖にこの女神に祈りを捧げる。



ラバーリー (インド)



長角マヤオ (中国)



アサロ (バブアニューギニア)



ヤズディ教徒のクルド (アルメニア)

【報道関係からの問合せ先】 日経ナショナル ジオグラフィック社 広報事務局
株式会社リリオ 担当: 仁地 (にんち) TEL: 03-6438-9195 090-2226-6459 ninchi.mikito@lirio.biz

日経ナショナル ジオグラフィック社 〒105-8308 東京都港区虎ノ門4-3-12